

地域ささえあい通信

第2号 (発行)2022年8月 富士宮市社会福祉協議会 地域ささえあい係

コロナ禍における地域福祉活動の進め方について

今まで、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指して、住民同士がお互いに支え合い・つながりあえるようさまざまな活動を進めてきました。

しかし、地域では、新型コロナウイルスの感染拡大により、外出の機会が減り、人と会い、話をするのが難しくなってきたことで、筋力の低下や持病の悪化、育児の不安や生活のストレスがたまるなど、体調の変化が起きています。それと同時に地区社協・寄り合い処・子育てサロンなども制限され、地域福祉活動に関わる皆様も本来の力を発揮できない状況にあると思います。

しかし、このような状況になったことで「誰かとつながる」「お互いに支えたり支えられたりする」など、今まで行ってきた活動がどれだけ大切なのかを改めて気づくことができました。

外出自粛を経験したことで、今、コロナ禍でもつながりを途切れさせないように工夫した取り組みが生まれています。ここで、コロナ禍でもできる人と人とのつながりの方法をご紹介します。

みんなでお茶会をやっていましたが、集まるのが心配。だから…。

「外でラジオ体操やるなら感染対策の負担が少なく、交流ができるのではないかとみんなで話し合い、週1回開催することに決定。誰でも参加してもらえるように、回覧板で周知する他、公園に遊びに来ている親子連れにも「ラジオ体操をやってるから参加してね!」と声かけをしました。



コロナ禍で交流会に参加できなくなってしまった方が心配。だから…。

お手紙作戦!! スタッフのメッセージと家でできる脳トレなどを一緒に付けて直接届けたり、郵送やポスティングをして、気持ちを伝えました。参加者からは、「なかなか話をする機会がなかったけど、毎回メッセージを届けてくれるので楽しみ」と話してくれています。



保育園児とサロンの交流できなくなってしまった。だから…。

オンラインを使って交流会を計画。カメラを通して子どもたちと一緒におしゃべりをしたり、ゲームを楽しみ、子どもたちの元気な姿を見て、私たちも頑張ろうという気持ちが沸き上がりました。



地区の行事が減ってきて、出かける機会がなくなってしまった。だから…。

地域内にウォーキングマップを作成し、100メートルごとにクイズを設置。好きな時間に自由に歩きながらクイズに答えて脳を活性化させます。参加者からは、「地域の良さを再発見した」「家族で参加し楽しかった」など健康づくりと地域のつながりづくりになりました。

富士宮市生活支援体制整備事業 第2層協議体 大宮西地区・芝川地区 それぞれの検討について

大宮西地区・芝川地区協議体は令和3年度から、「大宮西地区」と「芝川地区」に分かれて検討を行っています。

大宮西地区

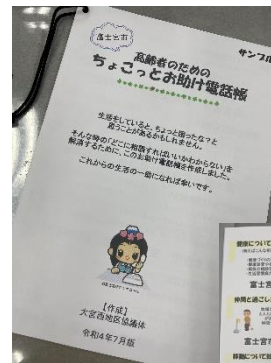
大宮西地区では、困りごとはあるが相談場所が分からない、という方が多いという意見が挙がり、困りごとの相談窓口を示した電話帳を作成することになりました。

内容についても議論を重ね、以前実施したアンケート結果をもとに、困りごととして多く挙がっていた内容と、それに対応可能な関係機関の連絡先を載せることとなりました。

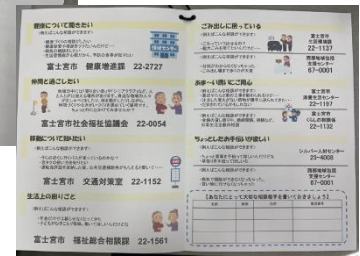
今後の予定としては、これまでの検討を形にしたものを試作品として、大宮西地区の協議体委員の皆様から実際に関わりのある高齢の方々へ直接手渡しし、活用いただいた際の感想をもらいながら、より良いものへと改善し、将来的には必要とされる人の手に届くようにしていく予定です。



< 検討の様子 >



< 電話帳 >



芝川地区

芝川地区では、移動やちょっとした困りごとで問題を抱えている人が多いという意見が挙がり、生活支援、移動支援について取り組んでいます。

モデル地区として上羽鮎区にご協力いただき、上羽鮎に暮らす高齢の方から、現在や将来の困りごとについての情報を集め、それに対して何ができるのかという検討を行っています。

また、芝川地区全体でも、「足の問題で寄り合い処やスロトレに行きたくても行けない」という方に対して、どんな手助けができるかというアイデア出しを行いました。

協議体委員の皆様の様々な視点から、色々なアイデアを出していただいたため、今後はアイデアをもとにさらに具体的な検討を行っていく予定です。



< 検討の様子 >